



祖父母も読める育児コラム

# 子の育ち！モデルは大人！

文=上西 由加子(保健師)



**聞** き分けが無く、兄弟やお友達とケンカしたり、まだ、うまく対人関係が築けずに困っていることはありませんか？

お友達などと仲良くするためには大人が見本を見せてあげることが大切です。また、おまかな対人関係の発達の流れを知っておくと、「こころのサイン」を読み取ることが出来ます。そこで今回は1〜3歳のおおまかな対人関係の発達・関わり方をお伝えしたいと思います。

## 1歳代

他の子どもにも興味を持つたり、相手の持っているものに興味があります。まだ「貸す・借りる」という発想を考えつくまでの脳が発達していないため、相手の持ちものが欲しくなり、欲求のまま横取りしてしまうこともあります。

一緒にいる大人の行動やことば、様子を見ながら少しずつ学んでいきます。ものの貸し借りは、大人が「貸して」「ありがとう」など言葉にして対応してください。子どもはそれを見ながら謝ること・お願いすることなど必要なことを学んでいきます。

また、大人とのやりとりが中心である時期なので、これから子ども同士で遊ぶ基礎が作られます。人と関わる楽しさを遊びを通して伝えていきましょう。



## 2歳代

気に入った相手を選んで、徐々に優しさのある行動ができるようになります。しかし、自己主張も強まって、欲求が先行するため、子ども同士のトラブルが増えます。また、まだ他の子に話しかけたり、自分から進んで遊びの輪に入っていくことが難しい時期です。

最初は大人が間に入って一緒に遊ぶようにしましょう。大人のやりとりを見て、話しかけや遊び方がわかり、どのように遊んだら楽しいのか理解できるようになります。

## 3歳代

この時期には言葉を使いながら「貸して」「どうぞ」のやりとりができるようになります。しかし、まだ自己本位なため順番を守ることができないなどケンカをしてしまうこともあります。

社会には守るべきルールがあるということなどを、この時期から少しずつ教えましょう。また、順番を守れないことやケンカを頭ごなしに怒るのではなく、なぜいけないのか具体的に、理由も一緒に伝えましょう。